

公益財団法人 全国学校農場協会新聞

第1号

発行所
公益財団法人
全国学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

全国大会講演へ要旨

演題 「農業が温暖化を
解決する！」

「農業だからできること」

講師 大学院大学至善館教授
株式会社未来創造部

代表取締役

枝廣 淳子 先生



誰もが異常気象を実感する近年、高温や渇水で、農作物の成長・供給が不安定になっています。しかし、農業は温暖化に脆弱な「被害者」である一方で、温室効果ガスを排出する「加害者」でもあることは、あまり知られていません。農業のどこからどのくらいの温室効果ガスがでているのでしょいか？農業からの温室効果ガスはどうすれば減らすことができるのでしょいか？

そしていま新たに、農業は温暖化に対する重要な解決策を提供できる大きな可能性を秘めている、ということが言われています。世界でもその可能性に注目し、「農業による地球温暖化対策」を進めようという動きが大きくなっています。それは、農業分野からの温室効果ガスの排出を減らすという、「マイナスを減らす」取り組みだけではなく、農業によって大気中の温室効果ガスを回収・固定化することで大気中の温室効果ガス濃度を下げていくという「プラスを創り出す」取り組みです。農業が温暖化対策の切り札になるのです！本講演ではまず、温暖化によって農業がどのような被害を受けているのか、その被害を最小にするためにどのような「適応策」を講じているかをお伝えします。次に温暖化の「原因」としての農業について解説したのち、「解決策」としての農業について、国内外の動向や取り組みをご紹介します。

I 研究発表・協議会

①栽培部会

「農場の有効活用について」

東京都立農産高等学校

主幹教諭 片山 南美子

②農業土木部会

「農業土木教育における教育施設・設備の現状と課題」

—教育現場の実情と

企業の声から—

静岡県立磐田農業高等学校

教諭 近藤 伴生

③生活部会

「全国農業高校の生活科の役割の明確化」

静岡県立田方農業高等学校

教諭 岩崎 利章

④農業経営者育成部会

「農場運営における問題点・課題点について」

茨城県立水戸農業高等学校

教諭 人見 有樹



発表された先生方

人類が直面する問題に答える。それが実学。

温暖化、資源枯渇、食料危機、絶滅危惧種の増加など研究対象は農学を起点に、あなたが想像する以上に広がりを見せています。

このような問題に答えていく学びや研究を在学中に体験することを実学と呼んでいます。

人類が直面する問題に答えていく人材を世の中に選んでいくことが東京農大の普遍的な使命なのです。



東京農業大学
TOKYO UNIVERSITY OF
AGRICULTURE
〒156-8502 東京都目黒区南1-1-1
<https://www.tnodai.ac.jp/>

農学部

応用生物科学部

生命科学部

地域環境科学部

国際食料情報学部

生物産業学部

II 指導講評 〈要旨〉

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
研究開発部教育課程調査官

吉田 幸人



【栽培部会】

遠隔圃場や遊休圃場の実態調査により、現実的課題を明らかにしていたきました。圃場の集約化・効率化とスマート農業技術の導入は、課題解決と情報活用能力育成の両面で重要です。

【農業土木部会】

教育現場と産業界のニーズギャップを可視化されました。企業は最新技術より基礎・基本の習得を重視しており、産学連携の強化と授業改善が必要です。

【生活部会】

農業を基盤とした福祉・保育・調理分野への展開によ

り、地域貢献を目指す取り組みが報告され、農業教育の可能性の広がりを見せています。

【農業経営者育成部会】

担い手育成の課題を真摯に分析。農家出身生徒の減少等の課題がある一方、各校の創意工夫による先進的実践も明らかになりました。

【農業高校の現況】

農業科は20年前の364校から296校に減少、生徒数は6万7千63人（高校生全体の23%）で減少傾向が続いています。進路は進学・就職が半々で、大学進学が増加傾向にあります。農業の教員免許状授与件数は、400前後（大卒の免許状授与件数）を推移しています。また、臨時免許状が増加しており、慢性的な教員不足を示しています。

【まとめ】農業教育の強み

である「実学」としての学びと「プロジェクト学習」は、学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を効果的に実現します。次期学習指導要領に向けた議論も始まっており、地域

連携やICT活用の推進が重要です。

現在、食料安全保障や環境問題への関心から農業が注目されており、これは農業教育にとって追い風です。各校は魅力ある教育課程の編成・実施に努め、「魅力的なロールモデル」を示すことで、中学生や保護者に具体的な将来像を提示することが重要です。卒業生の多様な進路実現という側面も含め、積極的な情報発信を期待しております。

（研究集録に全文掲載。なお講演内容は公益財団法人参照）

訃報



公益財団法人全国学校農場協会初代理事長 全国高等学校農場協会第16代会長 日置司明先生が令和7年7月22日（火）にご逝去されました（享年82歳）。葬儀は7月26日に家族葬にて執り行われました。謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。



すべてをつなぐキーワードは「いのち」。

安心・安全・健康な「食」。
地球・環境に配慮した「緑」。
健やかな未来を育む「人」。
宮崎県から、日本の未来を牽引する人材を育成しています。

いのちを学ぶ大学
南九州大学

環境園芸学部 人間発達学部
環境園芸学科 子ども教育学科
南九州キャンパス
〒885-0035 宮崎県都城市立野町 3764-1

健康栄養学部
食品開発科学科 管理栄養学科
宮崎キャンパス
〒880-0032 宮崎県宮崎市露島5-1-2

医療連携・農学・地方創生！

農学部 食農エコロジー学科（仮称） 2027年4月設置構想中※

医療系大学だからできる“食”と“健康”の新しい学び

※ 学部・学科の名称や内容などは予定につき、変更する場合があります。

鍼灸学部 鍼灸学科

保健医療学部 柔道整復学科

看護学部 看護学科

保健医療学部 救急救命学科



明治国際医療大学

〒629-0392
京都府南丹市日吉町保野田ヒノ谷6-1

TEL 0771-72-1231（農学部設置準備室）
<https://www.meiji-u.ac.jp/>